

[成果情報名] **青色系ポリエチレン袋と粘着剤を用いたネギアザミウマの大量捕獲**

[要約] ネギアザミウマの色彩に対する選好性を利用した粘着トラップを用いて大量捕獲を行う場合、淡青や青色のポリエチレン袋（青色ゴミ袋）に害虫捕捉用スプレー式透明粘着剤（粘着スプレー）を吹き付けたものが利用できる。

[キーワード] ネギアザミウマ、色彩、粘着トラップ、捕獲

[担当] 香川農試・病害虫担当

[連絡先] 087-889-1121

[区分] 近畿中国四国農業・生産環境（病害虫）

[分類] 技術・参考

[背景・ねらい]

グリーンアスパラガスのハウス長期どり栽培では、晩秋から初冬に成茎を刈り取った後に保温して冬季に若茎を収穫するが、保温中にネギアザミウマが発生して若茎が加害されることがある。保温中のハウス内では若茎が主要な増殖場所となるが、順次発芽してくる若茎は発芽の約 7 日後には収穫されて持ち出される。さらに、ハウス外から本種成虫が飛来して密度が高まることもない。この状況では、成虫の大量捕獲が有効な防除手段になり得る可能性がある。

そこで、大量捕獲による防除を検討する材料として、農業者にとって身近な資材を用いた安価な粘着トラップを作成する。

[成果の内容・特徴]

1. 淡青や青色の資材に粘着スプレーを噴霧すると、白色プラスチック板の 146～218%に当たる平均捕獲数が得られる（番号 8、10、11、14、15）。とくに、ゴミ袋を用いると、市販の粘着トラップに比べて面積当たりの単価が安い。
2. 捕獲数の多い資材を透明資材で被覆して多数回使用することを考え、一部の資材を一般農ビや紫外線除去フィルムで被覆して供試したが、捕獲数が顕著に少なくなる（番号 11、12、13 及び 22、23、24）。
3. 粘着シートでは粘着面を歩行する成虫が認められ、捕獲後に離脱逃亡できる場合があるために捕獲数が少なくなったと考えられる（番号 4、9）。この粘着シートに粘着スプレーを噴霧すると、捕獲数が大幅に増加する（番号 5、10）。

[成果の活用面・留意点]

1. 黄色粘着シートの色調も大量捕獲に適するが、大量捕獲に有効な黄色の資材は色彩や商品が限定されると思われる。
2. 青色の場合は、紺色のように濃いあるいは暗い青でなければ、様々な青色の資材が利用できると思われる。効率的な捕獲には一辺が 30cm 程のトラップが適するので、ゴミ袋を用いる場合は小さめのサイズを選び、袋の横幅に合わせて立てた 2 本の支柱にかぶせて極力低位置に設置して粘着スプレーを吹き付けると簡単である。

[具体的データ]

表1 各資材でのネギアザミウマの捕獲成虫数の比較¹⁾

色調	番号	資材名 ²⁾	反復回数	最低値	最高値	平均値
赤	1	プラスチック板(KP315)	10	0.0	6.3	1.3
橙	2	プラスチック板(KP655)	10	4.3	38.6	17.5
	3	プラスチック板(KP515)	10	14.9	52.2	36.5
黄	4	粘着シート(10cm×15mの市販品)*	6	13.5	68.6	37.2
	5	粘着シート(10cm×15mの市販品)	6	118.4	462.5	257.8
黄緑	6	プラスチック板(KP645)	10	16.4	56.3	37.7
緑	7	プラスチック板(KP635)	10	7.9	64.2	27.4
淡青	8	プラスチック板(KP326)	10	79.5	366.7	186.7
	9	粘着シート(10cm×15mの市販品)*	6	12.8	54.6	25.9
	10	粘着シート(10cm×15mの市販品)	6	100.0	200.0	157.2
	11	ポリエチレン袋(ゴミ袋)	6	90.1	575.0	217.8
	12	ポリエチレン袋(ゴミ袋)を一般農ビで被覆	3	8.7	22.5	15.1
	13	ポリエチレン袋(ゴミ袋)を紫外線除去フィルムで被覆	3	12.1	52.0	27.7
青	14	プラスチック板(KP615)	10	52.9	497.9	146.2
	15	ポリエチレン袋(ゴミ袋)	6	86.4	529.2	201.4
紺	16	プラスチック板(KP605)	10	4.7	100.0	38.4
黒	17	プラスチック板(KP85M1の光沢面)	10	0.0	5.9	1.1
濃灰	18	プラスチック板(KP78M1の光沢面)	10	4.0	52.0	21.6
灰	19	プラスチック板(KP77M1の光沢面)	10	40.0	277.6	108.9
	20	シルバーマルチ	6	5.7	21.6	13.1
	21	べたがけ資材(不規則な目合いのポリビニル製)	6	1.3	13.5	8.2
白	22	プラスチック板(KP45M1の光沢面)	—	100	100	100
	23	プラスチック板を一般農ビで被覆	5	0.0	18.8	8.1
	24	プラスチック板を紫外線除去フィルムで被覆	5	8.1	26.9	17.7
白色透	25	紫外線透過抑制ネット(0.5mm目合い)	6	32.7	99.0	62.5
明~無	26	べたがけ資材(柔らかい布状のポリエステル製)	6	20.9	74.3	46.8
色透明	27	ポリエチレン袋(0.05mm厚のゴミ袋)	6	7.4	21.1	18.7
	28	ポリエチレン袋(0.03mm厚のゴミ袋)	6	4.2	45.8	22.0
	29	べたがけ資材(不規則な目合いのポリビニル製)	6	10.0	45.9	21.7
	30	ネット(0.8mm目合いのポリプロピレン製)	6	11.3	34.6	19.8
	31	ネット(1mm目合いのポリプロピレン製)	6	6.1	33.3	21.4
	32	銀帯入りネット(1mm目合いのポリプロピレン製)	6	5.8	56.8	23.6
	33	一般農業用ビニル(一般農ビ、0.075mm厚)	6	0.0	13.0	7.2
	34	紫外線除去フィルム(0.075mm厚)	6	13.0	53.7	28.3

1) 反復の都度、2カ所に設置した白色プラスチック板での平均捕獲数に対する比率(%)で示す。30×30cmのサイズを供試し、1~5日経過後に中央の20×20cmでの捕獲数を調査。白色プラスチック板1枚当たり捕獲数は16~235で平均53.5個体。

2) 「害虫捕捉用スプレー式透明粘着剤(粘着スプレー)」を30×30cmに約2g附着させて供試した。粘着スプレーを噴霧しなかった場合は「*」を付す。また、プラスチック板はキョードー社製KPプレートで、その品番を付す。
 試験方法：雨よけ施設内の木枠ベンチにネギを密植し、ベンチを囲むように70cm間隔でネギに向けて資材を設置。資材の底辺までの高さは40cm。一回に15枚の資材が設置できるが、内2枚は白色プラスチック板として、資材や設置場所を入れ替えながら2001年6月から11月まで28回実施。ネギは刈り込みによって20~25cmの草丈を保ち、各資材との距離をほぼ一定とする。さらに、日当たりの差異などを考慮して、日単位で実施。

[その他]

研究課題名：超早どり・高品質アスパラガス生産技術の開発

予算区分：県単

研究期間：2001年度

研究担当者：松本英治、藤本伸

発表論文等：なし